

所管事務調査報告

令和3年12月10日

洞爺湖町議会議長 大西 智 様

経済常任委員会
委員長 千葉 薫

本委員会は、所管事務調査のため、次のとおり委員会を開催したので、その結果を報告します。

記

○所管事務調査その1

- 1 調査事項 NPO法人洞爺まちづくり観光協会の現況と課題について
- 2 調査日 令和3年11月12日（金）
- 3 出席委員 千葉委員長、大屋副委員長、篠原委員、立野委員、石川委員、板垣委員
- 4 説明員等 京谷会長、納谷副会長、西岡副会長、田所事務局長、星川事務局員
高橋洞爺総合支所長、庶務課 兼村課長
- 5 調査結果

NPO法人洞爺まちづくり観光協会の会員は、団体会員4名、個人会員73名の計77名となっている。本年度は、コロナ禍による緊急事態宣言などの影響により、とうや水の駅入館者、マリンキャンプ、水上オートバイの来訪者が減少し、当協会における本年度の収入は減少する見込みとなっている。

また、とうや水の駅内にて営業していた「うどんのさぬき屋」が経営難を理由に10月末に閉店となり、施設における唯一の飲食店が無くなったことに伴う影響を懸念している。

当協会においては、洞爺地区の観光振興に係る様々な事業や、地域住民生活の一助となる事業を展開しており、今後も事業を続けて行くため、情報発信の強化、経費削減などに取り組み、厳しい経営状況を乗り切るため鋭意努力を続けている。

コロナ禍においては、協会独自の取り組みだけでは解消できない問題もあることから、町における更なる支援助成が必要である。また、とうや水の駅は、老朽化による劣化が進んでおり、その対策を早期に進めるとともに、閉店とな

った飲食店についても関係団体と早急に協議を進めることも必要である。

○所管事務調査その2

- 1 調査事項 JAとうや湖の現況と課題について
- 2 調査日 令和3年11月12日(金)
- 3 出席委員 千葉委員長、大屋副委員長、篠原委員、立野委員、石川委員、板垣委員
- 4 説明員等 高井組合長、木村参事、斎藤営農販売部長、高橋農産指導販売課長、堀部畜産指導販売課長、坂爪青果指導販売課長、高橋洞爺総合支所長、農業振興課 片岸課長 村上主幹
- 5 調査結果

令和2年のJAとうや湖の全体販売高における洞爺湖町の販売高は、青果指導販売課で15億8,190万円、農産指導販売課で3億9,143万円、畜産指導販売課で3億6,486万円となっており、全体で23億3,819万円であった。

令和3年における農作物の生育及び収穫状況については、じゃがいもは前年並み、根菜類は一部で前年より収量が減少となるものもある。水稻は天候に恵まれ順調に生育し増収、小麦も生育が順調に進み収量は前年より少ないが品質は良好、豆類は収量が減ったが単価が上昇したことにより大幅な減収とはならなかった。畜産に関しては、相場が回復し牛肉の単価は上昇したが、豚肉は昨年を下回り、生乳生産量は猛暑により減少となっている。

クリーン農業については、多くの農家が生産物の安全安心な提供に取り組み、第三者認証（YES！クリーン認証）を取得している。

JAとうや湖は令和2年からスマート農業（ロボット技術やICTの活用）の導入普及を推進に取り組み、インフラ整備もかなり進んでおりトラクターの自動運転や農薬散布のドローン導入などを図っている。

今後も深刻さを増す労働力不足や高齢化といった課題に対応して行くためには、スマート農業の導入を積極的に進めて行く必要があることから、町の協力が重要なものとなっており、今後も引き続き支援が求められている。